



おっと、例でした。世 11: 11ではこう述べられています：「セムは五百年生き」

よおし、セムのことは忘れましょう。ではノアのように。あ、また えてしまいました。世 9: 29はこのように教えます：「ノアの一生は九百五十年であった。こうして彼は死んだ。」じゃあ、こうなのでしょうか？ 世 6: 3では120年の寿命が 束されたが、数 にはセムとノアがその を破ったことに？

おお、ちょっと待って下さい。

旧 による 々な数字を なる角度から眺めてみましょう。世 16: 16にはこのようにあります：「ハガルがアブラムにイシュマエルを んだとき、アブラムは八十六 であった。」世 21: 5では、このように されています：「アブラハムは、その子イサクが生まれたときは百 であった。」それでは考察してみましょう。100引く86、そして最初の10から6 を引き、9引く8 答えは14になります。よって、イサクが生まれたときにイシュマエルは14 だったことになります。

その数 、世 21: 8では、このようにあります：「その子は育てて乳 れした。」中 における乳 れは、民族的 により2年 とされます。では14に2年上 せると、サラがアブラハムに彼を追い出すよう命じたのは、彼が16 のときだったということになります（世 21: 10）。

まあ、いいでしょう。

ここまでは。

さらに数 、世 21: 14 19では、追放者イシュマエルが16 の若者ではなく、 力な乳 として描かれています：

「翌朝早く、アブラハムは、パンと水の皮袋を取ってハガルに与え、それを彼女の肩に せ、そのおとこの子を彼女に渡して送り出した。それで彼女はベエル シェバの荒野をさまよい いた。皮袋の水が尽きたとき、彼女はおとこの子を一本の灌木の下に投げ出し、自分は、矢の届くほど れた向こうに行って

すわった。それは彼女が『私はおとこの子の死ぬのを たくない。』と思ったからである。それで、 れてすわったのである。そうして彼女は声をあげて泣いた。神は少年の声を かれ、天使は天からハガルを呼んで、言った。『ハガルよ。どうしたのか。恐れてはいけない。神があそこにいる少年の声を かれたからだ。行ってあの少年を抱え上げ、彼を力づけなさい。わたしはあの子を大いなる国民とするからだ。』神がハガルの目を かれたので、彼女は井 をつけた。それで行って皮袋に水を たし、少年に ませた。」

16 の青年が「おとこの子」または「少年」として 述されている？ 当 その地域では、一般的に16 にもなれば 婚し、家族を いながらも二人目、もしくは三人目の子供の 生を待つような年 です。その年 であれば または兵士として き、ときには王として君 する者もありました。イシュマエルの 代、16 は成人に等しかったのです。それでは、具体的にどのようにして彼の父 は16 の「おとこの子」をハガルに渡したのでしょうか？ そして彼女はどのようにか弱い赤ん坊のように泣く（参考：「少年の声」）彼を灌木の下に置いたのでしょうか？ そして彼の母 は、正 にはどのように彼を持ち上げて自分の腕に抱え上げたのでしょうか？ 最 に、私たちは本当に、彼の母 が彼に みものを与えてあげなければならない程に衰弱していたと信じ ませなければならないのでしょうか？

そうです。そこが要旨なのです。私たちが信じるよう、仕 まれているのはそこなのです。

But wait, there' s more.

しかも、まだこれだけではありません。

第二 代 22: 2ではこのように教えられます：「アハズヤは四十二 で王となり、エルサレムで一年 、王であった。彼の母の名はアタルヤといい、オムリの 娘であった。」ええ？ 42？ これだけでは特 すべきには思えませんが、それは第二列王 8: 26の 述を るまでのことでしょう。「アハズヤは二十二 で王となり 」一体、どちらなののでしょうか？ 42？ それと22？

バイブルから手がかりを つけてみましょう。第二 代 21: 20では、アハズヤの父であるヨラム王は40 で死んだとあります。

えへん!

ヨラム王は40 で死に、彼の42 の息子によって 承されました。 の言い方をすれば、ヨラム王は自分より二 年上の子供がいたということに…。ミッキ マウスによれば、算数とは「君の靴を脱ぐことなく、20まで数えることが出来るようになることなんだよ。」しかし、足の指や家猫などの付加物を 算に入れたとしても、これらの数字は して意味を成しません。 理的な を出そうと急ごうとすると、第二 代 22: 1ではアハズヤがヨラム王の末っ子であり、来 によってヨラムの息子たちはアハズヤ以外、皆 害されたことが指摘されています。

よって、もしアハズヤが死 した父よりも2 年上だったのであれば、彼の年上の兄弟たちは、彼らの父 とどれほどの年 の差があったのでしょうか?

明らかに、第二 代 22: 2は信 性がなく、アハズヤが王位を 承したのは22 だったとする第二列王 8: 26が正 な であるといえるでしょう。

さて、ヨラム王は40 で死に（第二 代 21: 20）、22 のアハズヤ（第二列王 8: 26）によって王位は 承されました。つまり、アハズヤが 生したときにヨラム王は18 で、およそ17 の に妻を妊娠させたことになります。しかしヨラムには年 の兄弟がいた（第二 代 22: 1）ため、彼は15 もしくはそれ以前から家族を持っていたことになります。16 で 力な少年だったと言われているイシュマエルは一体どのような立 になってしまうのでしょうか。その 代、ティ ンエイジャ らは既に立派な大人だったのですから。

しかし、アハズヤが42 で王位を 承したとする第二 代 22: 2に してはどうでしょうか?

写本の模写における りであることに疑いありません。

しかし、 はそこではないのです。

イザヤ 40: 8では、「神の言 は永 に立つ。」と主 します。しかしこのような断言はたとえ微少であれ、 写の り、もしくはその他のあらゆる りを免除するわけではありません。事 、イザヤ 40: 8に基づけば、いかなる「言 」であれ、「永 に立つ」ものでなければ、それが神のものであることから失格の烙印を押されることになるのです。

それは、私たちにその信 性を わせます。

もし「神の言 は永 に立つ」のであり、アハズヤの年 に する「言 」が 代によるテストに合格しないのであれば、それは の言 なののでしょうか？ 神、それとも 魔？

この 点では、旧 できさえ不 定要素が多いように えます。

第二サムエル 24: 1ではこのように述べられます：「再び主の怒りが、イスラエルに向かかって燃え上がった。主は『さあ、イスラエルとユダの人口を数えよ。』と言って、ダビデを かして彼らに向かわせた。」しかし、第一 代 21: 1にはこうあります：「ここに、サタンがイスラエルに逆らって立ち、ダビデを い んで、イスラエルの人口を数えさせた。」

え と、どちらでしょう？ 主なのか、それともサタン？ 多少（いや完全に） うと思えますが 。

人情 窃盗とは、正にこのことでしょう。

しかし真面目に言っても、こういった りは理解可能なのです。 局、 示に直接立ち会うことが出来る ではないので、 が と しているかを知ることは しいのです。出エジプト 33： 20で、神は言います：「あなたはわたしの を ることはできない。人はわたしを て、なお生きていることはできないからである。」

これです。

神の を て、生き らえることは にも出来ないのです。

